

祝・市制施行60周年

蒲郡市 60年の あゆみ

第7代市長 いなば しょうきち 稲葉 正吉
平成23年11月7日～現在

秘書課 ☎66♦1161

金原市長の任期満了に伴う市長選挙は平成23年10月16日、過去の市長選では最多の4人が立候補して行われ、前副市長の稲葉正吉氏が当選しました。

稲葉市長は、市職員時代に培った豊富な行政知識と経験を生かし「活気・元気のある蒲郡」を目指した市政をスタートさせました。

「フットワーク良く、スピード感をもって、現場主義を貫く」をモットーに、まず始めに執りかかったのは人口増につながる町づくり施策でした。

就任後すぐに市民病院の出産制限の緩和と里帰り出産の再開を行い、また中学校卒業までの入院・通院医療費の無料化を実施。さらに、小学校1年から中学校3年までのすべての学年で35人以下学級を実施し、教育の充実に努め、安心して出産・子育てのできる町づ

くりの推進に努めてこられました。また、働く場の確保のため、企業用地確保・企業誘致を積極的に行い、蒲郡市の魅力や住みやすさを発信した定住促進活動を推進しています。

長年の悲願であった三河湾オレンジロードの無料化については、各方面への働きかけを積極的に行い、24年12月に実現しました。

25年3月には、蒲郡の玄関口である蒲郡駅コンコースに観光交流センター「ナビテラス」をオープンさせ、観光PRや物産展示、さらにはコンサートなどの開催を通じてにぎわいが生まれています。

また、住民の意見を市政に反映させるため、市内7中学校区での「地域懇談会」を毎年開催し、住民との意見交換に努めています。

今年4月、蒲郡市は市制60周年を迎えます。

この記念すべき節目を機に、蒲郡市のさらなる躍進・発展のため、稲葉市長の牽引力に期待するところですよ。



住民の生の声を聴き意見交換をする「地域懇談会」

60th Anniversary

今月の スポットライト

ロゴマーク採用者
近藤 弘明さん(愛知工科大学)

キャッチフレーズ採用者
壁谷 喜八郎さん(西浦町)

企画広報課 ☎66♦1145

今月から、市制60周年を盛り上げる方々の思いを掲載します。初回は、市制60周年のロゴマーク、キャッチフレーズの採用者2人を紹介します。

◆ロゴマークへの思い

近藤弘明さん(愛知工科大学)
蒲郡60周年ロゴマークを作るにあたり、まず蒲郡といえどどんな場所か、名物は何か、ロゴマークを見ただけで分かってもらえるように考えて描きました。

蒲郡といえば山や海など自然に囲まれているので、竹島や海、ヨット、名物のみかんをデザインしました。青は、集中力を高め、精神を安定させる効果があり、緑には、安心や安定、リラクゼーションなどの特徴があります。橙色は、陽気でにぎやかなイメージがあるのでみかんを大きくして市が今後さらに繁栄し、竹

島や自然あふれる蒲郡に来て、疲れを癒してもらえるように作りました。

このロゴマークで、蒲郡市がよりにぎやかで活気あふれるまちに、そしてこの自然をいつまでも大切にしていただけ願っています。

◆キャッチフレーズへの思い

壁谷喜八郎さん(西浦町)
「それぞれの人にそれぞれの思い、未来に活躍する自分のために日々努力する若者たちに勇気を持って歩んでほしい。蒲郡は気候も温暖で優しさに包まれた自然の豊かな所です。活躍してきた人生の先輩や両親からバトンを受け取りあなた自身の道を切り開いてみてください。わからないことや不安に思うことも友達、先輩、両親とよく話し合うことできっと乗り越えられることでしょう。未来に向かって新しいことを自分の考えで挑戦してみてください。」



左：壁谷喜八郎さん 右：近藤弘明さん